

浜松まつり 学生参加策提案

ことしの浜松まつりに浜松市中区曳馬の「曳馬町三浦組」として準備段階から参加した、静岡文化芸術大(同区)の学生3人が24日夜、大学生のまつり参加を促す方策提案を同大で行った。浜松まつり企画統制監理部や同大周辺の自治会・たこ揚げ会などから約15人が参加した。

静岡文化芸術大生



浜松まつりへの学生参加を促す方策を提案する(右から)篠崎さん、川口さん、杉山さん

|| 浜松市中区の静岡文化芸術大

法被貸し出しや相談窓口

幼少期から三浦組の一員として参加してきた3年生の篠崎真実さん(20)と、篠崎さんに誘われた2年生で静岡市清水区出身の杉山みさきさん(20)、青森県出身の川口璃穂さん(20)。3人は3月から同組の会所を訪ねて住民と交流を図り、糸目付けや事務作業などを見てきた。まつりを振り返り「地域の人の温かさに触れ、来年も参加したいと思う」と感想を語った。

市外出身の学生がまつりに参加するためには「きっかけが必要」と指摘。法被のレンタルや参加方法の相談に応じる窓口の設置などを提案した。まつりの認知策として、学内で練りやおはやしを楽しめる機会を設けたり、デザインを学ぶ学生のスキルを生かしてたこや手ぬぐいのデザインを募集したりする参加型イベントを挙げた。まつり会館の出張展示も勧めた。

参加者からは好意的に受け止める意見が多く出され、「大学内に学生と地域をつなぐ窓口があるといい」などと要望した。

(浜松総局・佐野由香利)